



説教要旨「主の食卓を共に囲もう」

ルカによる福音書 22章14～23節

イエス様は十字架の死の前夜、過越の食事を弟子たちと共になさいました。過越は、エジプトの奴隷状態にあった民が、主なる神の大いなるみ業によって解放され、救われた出来事です。その時、イスラエルの民は子羊の血で戸に印をつけ、災いを逃れました。しかし、この時イエス様が見つめておられる過越は、イエス様ご自身が生け贄の小羊として屠られる、十字架の出来事です。その十字架に先立って、イエス様はこの食事の席で、パンと杯を取り、それに特別な意味を持たせて弟子たちに分け与えました。それは、このパンとぶどう酒が、何らかの奇跡によってキリストの血肉に変化して、それを弟子たちが食べる、ということではありません。イエス・キリストの犠牲によって、いま生かされているという事実を、このパンを食べることによってそれぞれの体に刻み込むということです。

過越の小羊の血が目印となってイスラエルの民が守られ、エジプトからの解放が実現したように、イエス様が十字架にかかって死んで下さることによって、罪の支配からの解放、赦しという救いが実現します。それはイエス・キリストの血が十字架で流されることによって与えられた“新しい契約”であり、神様と私たちとの新たな関係性です。それまでの“古い契約”の対象は、イスラエルの民という一つの民族でした。しかしこの新しい契約は、イエス・キリストを信じる者たちすべてが対象です。この新しい契約によって、新しい神の民と、その群れである教会が生まれたのです。

使徒言行録には、最初期の教会が行っていたことの一つとして「パンを裂くこと」(2:46)が挙げられています。それは単に一緒に食事をしたということではなくて、あの過越の食事においてイエス様がパンと杯とを彼らに与え、「私の記念としてこのように行いなさい」と命じられたみ言葉に従って、イエス様の体であるパンと、イエス様の血である杯とが、新たに教会に加えられた人々にも分け与えていったということでしょう。ここに、私たちも礼拝においてあずかっている聖餐の起源があるのです。